



みやまえ Miyamae

滑川町立宮前小学校 学校だより

7月号

令和2年 6月25日

電話 0493-56-2204 FAX 0493-56-2065

学校って楽しいな

「子曰(いわ)く、学んで時に之(これ)を習う。亦た悦(よろこ)ばしからずや。朋(とも)あり、遠方より来(きた)る。亦た楽しからずや。人知らずして慍(いきど)おらず。亦た君子(くんし)ならずや。

センセイはこうおっしゃった。

「いつになっても勉強するのはいいものですよ。みんなでこの教室に集まって一緒に勉強してる時は特に楽しいですね。だってひとりじゃセンセイだってつまらないですよ。それと同じで、友だちが遠くからわざわざ話に来てくれるのも嬉しいですよ。みんなもそうでしょう？ひとりじゃ生きていても寂しいですね。でも、その代わりに誰かに会ってその人が自分をぜんぜん知らなくて『あんた誰？』とかいわれたりするとムカツいて、クソ誰とも会うんじゃないかなって思ったりするんです。人間てほんと勝手なんですよ。みなさんは、そんなことで腹を立てるような人にならないでください。そんなのツマラナイでしょ。自分は自分、でもひとりであるより他の人というとなんか楽しい、ぐらいいい感じで生きてください。それでいいんです」

(高橋源一郎 「一億三千万人のための『論語』教室」 河出書房 p16)

6月1日からの2週間の分散登校の後、15日からは通常の形で学校が再開されました。熱中症が心配される暑い日もある中、多くの保護者の皆様へ、登下校時の見送りやお迎えに御協力いただきありがとうございます。

1年生の国語では、「わけをはなそう」という授業で、「わたしはたのしいです。どうしてかというところからです」の形式で思い思いに文を作り、発表していました。～の部分に「友達ができた」「みんなに会えた」「みんなと遊んだ」と学校が再開された喜びを表現していました。各学年で授業に真剣に取り組む様子や友達との談笑を楽しむ様子、上級生が1年生を優しく労る様子など、好ましい光景を目にすることができました。

ある担任は、「やっぱり子ども達があると楽しいです。慣れない(新型コロナウイルス感染症)対策で気疲れしているところはありますが、子ども達から元気とパワーをもらっています」と語っていました。教職員も子ども達との触れ合いによって自らのアイデンティティを感じるものだとと言えます。

冒頭の文章は、高橋源一郎の「一億三千万人のための『論語』教室」(河出書房)からの引用です。「論語」と言えば、諸説ありますが、およそ2500年前の書物です。学校の魅力はいつの時代も変わらないものだと改めて感じました。

例年、お世話になっている水房の宮島様の水田での田植えと稲刈り体験はできませんが、宮島様に稲苗をご提供いただき、福田様はじめJAの皆様の御指導で、バケツで稲作体験をしています。3年生は、マスクをして、町内の社会科見学に出かけました。運動時はマスクを外し、集合して教師の説明を聞く場面ではマスクをして体育の授業をおこなっています。

今後、社会全体が、新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならない状況(withコロナ)が長期間続くこととなります。感染症対策を講じつつ、協働的な学び合いという特質を持つ学校教育ならではの教育活動を展開していかなくてはなりません。

今後とも、下校時のお迎えなど何かとお世話になりますが、御協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。